# 日本人専用歓楽街「タニヤ」の変容

―― ホステスたちの労働経験に着目して ――

The Transformation of Thaniya, an Amusement Area exclusively for the Japanese:

With Focus on Working Experiences of Hostess

# 倉 田 明 香\* KURATA Sayaka

This paper has its research field in the area along the Thaniya Street in Bangkok, Thailand, which is known as an amusement area exclusively for Japanese people. As Thaniya was developed to serve Japanese resident employees, foregoing research works on its function have been done with focus on such people. However, the meaning of its existence is related not only to the convenience of Japanese guests but also that of hostess in the area. In this research, light was casted on hostess to investigate their sense of values and the role they have borne in the existence of the street.

This paper investigates working experiences of hostess to analyze and examine the function of the street considering the following aspects; 1) Thaniya is considered as the "upper class" in Thai sex-related business, 2)hostess have pride for being at the upper class and are conscious that they are different from redlight district workers, 3)hostess have voluntarily chosen to work in Thaniya street.

#### 1. はじめに

バンコクには、ゴーゴーバー、マッサージパーラー、カラオケクラブといったさまざまな業態の性娯楽施設が多岐に渡って営業され、巨大な市場となっている。しかし、これらの施設は、みな同じ形態で営業されているわけではなく、それぞれ客層のニーズに合わせたスタイルで幅広く展開されているため、こういったタイ性産業の多様化・複雑化は、タイにおける売買春の特定を明らかに難しくしている[ワティニー・ゲスト 2000:205]。そのため、「性産業」という大きな枠組みでの考察は、タイ性産業が抱える諸問題の理解や

細部の把握を困難にするという側面があり、ミクロな考察をマクロレベルの問題に転換する視座が必要である[市野沢 2003:35]と、近年指摘されている。また、当事者である性産業従事者に関しても、従来さまざまな研究者によって指摘されてきた女性像一家族のために性産業で働く哀れな女性一とは異なるケースが散見され[Cohen 1996; Odzer 1990; 1994; 市野沢 2003]、「貧しい」という一言だけでは彼女たちの姿を表すことはできないという現状がある。むろん、タイ性産業の中には人身売買や児童買春により搾取され続けている者たちがいることは理解しており、こういった問題を軽視しているわけではない。しかし、従来指

<sup>\*</sup>東洋大学大学院国際地域学研究科博士後期課程

摘されてきた女性像とは異なるケースに関しても深く考察されるべきであると考え、タイ性産業の中では女性側がある程度の主体性を持つことができる業種として、日本人が多く関わるタニヤのカラオケクラブを研究対象としている。

タニヤは、バンコクにありながら顧客は日本人専用、という特殊な空間である。タニヤに関する研究は、日下 [2000] が接待に関わる日本会社文化とタニヤの存在意義について社会学見地から考察を行ったものが最初であり、ホステス1) に関しては、青山が著書の一部で「『タニヤのワーカーである』ことは、『セックスワーカーである』ことの意味を引き上げる、ある意味特別な意味を持っていたと言える」[2007:232-233] と、彼女たちの意識について言及している。しかし、タニヤに関する既往研究は多いとは言えず、特にホステスの労働経験に基づいた考察は、さらなる蓄積が必要であると考えている。

よって、本稿では、タニヤのカラオケクラブを対人接客的性サービスの売買市場<sup>2)</sup>と位置付けた上で、タニヤの誕生から今日までの変容と、日本人専用歓楽街として存続した理由に関して、ホステスの労働経験から明らかにすることを目的とする。その際に、1)タニヤがタイ性産業の中では<上位>に位置づけられていたこと、2)ホステス自身も自分たちが<上位>であるという意識を持っていること、3)ホステスたちが仕送りだけではなく、自身の所得向上の場としてタニヤを選んでいるケースが見られること、という3点に着目し、考察を進める。

本研究は文献調査に加え、筆者のフィールドワークによって得られたデータに依拠している。調査手法に関しては、佐藤[2002]のフィール

ドワークの技法に基づき、聞き取り調査と参与 観察を行った。この調査手法の詳細に関しては、 第4章の冒頭で説明を加える。

調査期間は、2006年8-9月、2007年8-9月、12月、2008年8-9月、2009年8-9月、12月、2010年5月-2011年1月であり、聞き取り調査の使用言語はタイ語、英語、日本語である。調査対象者は、カラオケクラブのタイ人経営者3名、日本人マネージャー2名、女性責任者であるママ、チーママ³)10名、ホステス約80名(短期的かつ簡易的な聞き取り調査も含める)、日本人男性駐在員15名、日本人男性観光客15名である。タニヤのホステスに関しては、入れ替わりが激しく、継続的な調査協力者は2011年1月時点で、経営者、ママ、ホステスを合わせた10名であった。

本稿の構成は、まず、2章でタイの経済発展と 性産業の関係性を示し、3章では先行研究をもと に、タニヤの誕生から現在までの歩みを述べる。 4、5章は本稿の中核であり、調査データをもと に、ホステスたちの労働経験の描写を提示しなが ら、タニヤとホステスに関する考察を行う。

# 2. タイにおける経済発展と性産業の発展

タイ性産業は国の外貨獲得収入や現地に暮らす 人々の所得向上に少なからず寄与していること が推定される<sup>4)</sup>。タイ性産業の発展要因には、第 二次世界大戦後に行われた経済政策により発生 した経済格差の拡大、観光産業の発展、ジェン ダーロールといった点が多くの研究者により指摘 されているが、タイ性産業が現在のように国際 化し、巨大市場化した直接的な背景の1つとして は、ベトナム戦争時にタイ政府がアメリカとの 間に結んだレスト&レクリエーション (Rest and Recreation) 条約が挙げられる「トゥルン 1993: 191-194]。この条約により、特別市に指定された パタヤは、小さな漁村から米軍兵士向けにリゾー ト開発され、街にはホテルや性娯楽施設が立ち並 び、米軍はタイに巨額の外貨を落としている「ワ ティニー・ゲスト 1994:192]。しかし、ベトナム 戦争が終結し、米軍引き揚げという特殊な事情を 抱えたタイは、観光開発事業の推進により、残っ たインフラ設備の消費を行うべく、外国の投資を 推奨している。また、この頃、タイ政府は主要産 業であった農業部門を工業製品・輸出サービス部 門へ方向転換し、ここでも外貨獲得を目的とした 経済政策を行っている。この経済構造の再編は、 輸出を農産物から工業製品へ、輸入代替型を輸出 主導型へと転換を行ったため、地域による発展の ばらつきと労働力の需要の変化をもたらし、都市 部であるバンコクとその近郊と、特に農村部であ る東北・北部の経済格差を拡大させている「ワ ティニー・ゲスト 2000:193]。雇用に関しても、 農村部では生産性を上げるために男性中心の雇用 政策が行われたため、都市部への人口移動は男性 ではなく、女性が大半を占め、とりわけ、東北・ 北部で見られる「娘が親を支えなければならない | という伝統文化に根ざした慣習が、女性の出稼ぎ を後押ししていた[パスク1990:72-79]。

結果として、タイは観光立国に成長したが、この観光開発が行われた当初、観光客を引き寄せる手段として、各国のメディアや旅行会社がタイ人女性の性的な魅力をプロパガンダとして利用することをタイ政府が推奨していたという指摘がある[トゥルン 1993:317-328]。この指摘から、タイ政府が外貨獲得手段のために性産業を繁盛させた

かったという思惑わかると同時に、外国人観光客部門だけではなく性産業全体に対する保護的な態度が見られたという「ワティニー・ゲスト2000:197」。1970年代、日本国内では旅行会社が買春ツアーを斡旋し、台湾、韓国、フィリピン、タイへの団体買春ツアーが盛んに行われており、後に国際的な非難を浴びている。現在では、日本人観光客によるあからさまな買春ツアーは減少しているが、性的なサービスを目的とし、タイを訪れる観光客は、日本人以外にもいまだ多く存在する。タニヤも現在は日本人観光客をターゲットとして営業されている店が多いが、買春ツアーが栄えた1970年代は観光客ではなく日本人駐在員をターゲットとしており、当時の観光産業の方針とは異なる動きを見せていた。

# 3. タニヤ通りの変遷

#### (1) タニヤ通りの形成

バンコクのビジネス街であるシーロム地区のBTS(バンコク・スカイトレイン)サラデーン駅を降りると、眼前に日本語表記の看板を連ねたビルが立ち並ぶ200-300m程の通りがある。その通りがタニヤ(Soi Thaniya)であり、現在、日本料理店やカラオケクラブが100軒以上入店している。タニヤの近辺には、ゴーゴーバーやナイトバザールで有名なパッポン(Soi Patpong 1、2)、ゴーゴーボーイで有名な通称ソイ・トワイライト(Soi Tantawan)があり、この界隈は夜になると外国人観光客で賑わい、混雑する。

タニヤの誕生には、日系企業のタイ進出が密に 関係しており、「日系企業のシンボル」と言われ たタニヤビルが完成するまで、通りは道の両側を 緑の木々に覆われた、建物もほとんどない小さな路地だった[日下 2000:84-85]。タニヤビルは、1970年9月にタニヤ通りとシーロム通りが出会う角地に建てられ、ビル完成後、東京銀行(現在の三菱東京UFJ銀行)が1階にバンコク支店を開店させたのを皮切りに、次々と日系企業が支店を構え、数多くの日本人がこのビルに出入りするようになった。それと同時に、タニヤビルの周辺には日本人駐在員をターゲットとした日本料理店、バー・クラブが開店し始め、日本人向けの歓楽街が誕生した。それまでは、パッポンに日本人が情報交換や交流をしたバーやクラブが存在したが、タニヤビル完成を機に、それらの店舗はタニヤに移動をしてきたと言われている「日下 2000:88]。

#### (2) カラオケクラブの誕生と展開

現在、タニヤと言えば、「日本人」、「カラオケ」、 「買春」というイメージがかなり強いが、タニヤが誕生した当初は、会員制の高級クラブが多く、 会員を同伴しないと入店できない一見様お断りの 店が存在し、ある一定の秩序を守りながら営業されていたと言われている。クラブの会員は日本人 駐在員であり、現地採用の日本人は顧客に含まれていなかった<sup>5)</sup>。

「夜の世界のことなので、買春や愛人関係が全く無かったとは言えない。そういうトラブルはよく聞いた。でも、今みたいに大勢の女性が出勤時のドレスを着たまま店の前で客を呼び込むような行動は無かった気がするな。僕らの多くは接待目的だったからね。日本のクラブでもあるでしょ?それと同じ。僕らが帰るときに、店先まで見送りに来てくれるとか、そういうのはあったよ。

(元駐在員A<sup>6)</sup>、60代、2008年12月 埼玉県内某 所にて)

カラオケクラブは、1985年のプラザ合意の 4~5年後に、当時、日本国内で流行し、バーや クラブでは必需品となりつつあったカラオケがタ ニヤに持ち込まれたことで、営業展開されるよう になった [日下 2000:89]。プラザ合意は急激な 円高をもたらし、多くの日系企業がタイに進出し たため、日本人駐在員の数は大幅に増え70、カラ オケクラブの件数も増大した。プラザ合意以前に タイ進出を果たしている日系企業には、いずれも 大手有名企業が名を連ねており、駐在員の給与や 手当ては一般平均よりも高額であり、接待費を中 心とした交際費についても用意があったことが推 測される。

## (3) 駐在員から観光客の獲得へ

プラザ合意後、日系企業の増加に伴い、カラオケクラブは繁盛していたが、1990年に旧大蔵省が発表した「土地関連融資の抑制」の通達により、日本経済を支えてきた長期信用は崩壊し、いわゆるバブル崩壊による不景気が日本を襲った。この通達は、国外の日系企業の経費にも影響を与え、企業の接待費により均衡を保っていたタニヤは日本国内の不況の煽りを受けることとなった。この頃、タニヤのカラオケクラブの軒数は300軒以上8)とされ、接待費によりタニヤを利用していた駐在員が足を運ばなくなると、新たな客層を獲得しなければならず、タニヤは日本人観光客を積極的に呼び込むために、安価な時間制パック料金と「店外デート」を導入した。店外デートとは、店側が定めた料金を支払うことで、女性を店から

「オフする」 = 外に連れ出すことができるシステムであり、現在のタニヤではこのシステムを推奨しているカラオケクラブがほとんどである。しかし、この一連の変化がきっかけとなり、それまでタニヤに通っていた駐在員の中には、タニヤ離れをする者も少なくなかった。

「『外に行こう』ってうるさいから、『ごめんね、オフはしないよ』って言ったら、あからさまに嫌な顔するんだよ。で、その後、『なんで?どうして?』ってしつこいから、はっきり断ったの。そしたら、『チッ!』って舌打ちして、どこかに行っちゃったんだよ。そしたら、別の女の子が変わりに隣に来たんだけどね、もうあの店は二度と行かない。ていうか、タニヤはもういいや。たぶん、自分の意思とは関係なく、(ホステスに)押されて店外デートしちゃった人も居ると思うよ。」(駐在員B、30代、2007年8月 スクムビットにて)

「バンコクの日本人社会って本当に狭いんだよ。誰かと飲みに行ったら、隣のテーブルに座ってる人がなぜか僕を知ってるんだ。だけど、僕はその人を知らない。でも、どこかで間接的に会っているのかもしれないから、知り合いのネットワークを辿ってみると、すぐに自分に辿りついたってことはよくある。以前は、タニヤやゴーゴーバーにも行ってたんだけど、今は歓楽街でタイの女性と一緒にいるところを知り合いに見られて、買春してるって思われたら色々と厄介なんだ。仕事にも色々と影響が出るからね。ましてや、タニヤなんて日本人ばかりだから。」(駐在員C、2007年9月 スクムビットにて)

「観光客は、あくまでも短期の滞在だからバンコクの日本人社会とネットワークを持っているわけじゃないよね。だから、どんな振る舞いをしても、知り合いの目を気にする必要はないでしょ。どこかで食事をして、『じゃあ、この後はタニヤに行きましょうか』って、酔いながら発言をしているグループがいるけれど、僕はどこに知り合いがいるかわからないから、公衆の面前ではとても言えない。それに、観光客が多く集まるってことは、それだけ店の中が騒がしくなって、中にはタイの礼儀を知らずに行動する輩がいる。そういう中に混ざりたくはないしね。」(駐在員D、40代、金融関係、2009年9月 シーロムにて)

駐在員Bは、接客よりも「オフ」をせがむホス テスの態度について不満を口にしているが、「店 外デートーから高額な収支を得ているホステスの 場合、顧客との会話や接客という過程を重要視せ ず、とにかく「店外デート」の約束を取り付ける ことに意識を集中している者が、店舗内での観察 からも頻繁に見られた。駐在員CとDが持つ、バ ンコクの日本人社会の目を気にする意識に関して は、企業の知名度が高く、クリーンなイメージを 保たなければいけない立場にある者、または重要 な役職にある者の場合、強くなる傾向にあると考 えていたが、そうではないケースにおいても、周 りの目を気にしている駐在員が意外にも多い現状 が明らかになった。さらに、駐在員Dは、観光客 の増加と観光名所化しつつあるタニヤについて言 及し、タニヤが日本人の間で有名になりすぎたこ とにより、カラオケクラブを訪れる顧客の層が多 様化し、言動や振る舞いといった面で、目を覆い たくなる現状があることを指摘している。バンコ クに住む駐在員にとって、タニヤは日常空間に近い位置にあるが、観光客や短期出張者にとってのタニヤは、日常空間から完全に離れた「旅先」であることが、言動や振る舞いに差異が見られる要因の一つとして考えられる。

タニヤが現在のように様変わりする以前の状況 を知る駐在員経験者は、当時のタニヤの様子を思い返し、次のように話している。彼らは、日本の 会社文化の「ツケ」や「接待」が主流であった時 代に、大手有名企業の社員としてバンコクに駐在 していた。

「タニヤは日本で例えると銀座に近い雰囲気があって、やっぱり接待が多かった。銀座のホステスと比べてしまうと、劣るところはあるけどね、タイ人女性ならではのいいところもあるから、そこまで気にしなかったよ。」(元駐在員E、70代、駐在当初は大手自動車メーカーに勤務、2008年5月 東京都内某所にて)

「顧客は駐在員ばかりだった。今の若い人はそういう背景を知らないんじゃないかな。僕らは女を買ってたわけじゃないんだよ。今みたいに日本人も多くなかったから、日本を懐かしんだり、交流の幅を広げたりする意味で通ってた人もいた。携帯電話も無かったからね。」(元駐在員F、60代、金融業、2008年9月 スクムビットにて)

駐在員のタニヤ離れに関しては、日系企業の支 社がシーロム地区からスクムビット地区へと移 転・進出したことも挙げたい。現在、駐在員の多 くはスクムビット地区に居住しており、特にスク ムビット・ソイ31、32、33には、日本人向けのク ラブが営業展開されている<sup>9)</sup>。そのため、夕刻から観光客で混雑するシーロム地区まで足を運ぶ必要がない、という駐在員の声がある。

「スクムビットのクラブも連れ出しはできるよ。 タニヤのような観光客で賑わうところよりも、こ ちらの方がいいな。帰りもすぐに家に着く。まぁ、 単身だから奥さんに脅えずにスクムビットで飲め るんだけどね。」(スクムビット在住・駐在員G、 30代、2009年9月 スクムビットにて)

「駐在員でタニヤに進んで行く人は少ないと思う。駐在して間もない人や、よほど目当ての子でもいない限り、行かないよね。タニヤに行きたいって言うのは、新参者っていうイメージがあるな。(タニヤの)女の子も無駄に気位が高いというか・・・・実際はもう置屋化してるのにね。」(スクムビット在住・駐在員H、40代、2009年9月 スクムビットにて)

タニヤがあるシーロム地区とスクムビット地区は、大幅に距離があるわけではなく、BTS、タクシー等の交通機関は充実しており、混雑時を除けばアクセスはそれほど困難ではないと考えている。しかし、それでも、駐在員の集客ができていないということは、タニヤには彼らを惹きつける魅力が無くなっていることが考えられる。また、バンコクの都市開発が進み、娯楽施設や飲食店が増え、選択肢の幅が増えたことも影響していると考えている。従って、現在のタニヤはさまざまな要因が重なり合い、かつてのように「日本人駐在員の街」とは言えなくなっている。

#### (4) 衰退するタニヤ

現在のタニヤのカラオケクラブは、日本人駐在 員だけではなく、日本人観光客も多いとは言えな い状態である。日本語表記の看板のネオンが点灯 し始める夕刻になると、物珍しそうにタニヤ诵り を眺め写真撮影をする外国人観光客の姿が見られ るが、彼らの多くは日本料理店には入らず、通り を通過していく。特に、夜間のタニヤ通りは、日 本人男性、あるいは日本人と同様の風貌に見える 東アジア系の人間以外が浮いてさえ見える空間に 変化する。夜8時を過ぎると、酒気を帯びた日本 人男性の姿が見られてくるが、この時間を過ぎて も、通りが大盛況している様子は無く、客引きの ホステスたちは気だるそうに店の前で同僚と会話 をし、人が通るのを眺めている。そのような状況 が続いたためか、かつては日本人同伴を条件とし て、外国人の入店を許可していたカラオケクラブ の中には、日本人を同伴していない韓国人や中国 人の入店を許可する店が見られる。特に、日本人、 中国人、韓国人は外国人からは非常に見分けが付 きにくく、片言の日本語を話したことで日本人だ と勘違いして店内に入れると、実はそうではな かったという事例や、日本語を話すことができる 在日韓国人のグループを日常的に入れている、と いう事例を聞くことができた。これには、近年の 中国や韓国の経済成長により、タイ国内で中国・ 韓国の観光客や駐在員が増えていることと、日本 人の減少によるカラオケクラブの経営悪化が関係 していると考えられる。

また、2006年9月に起こったタイ・軍事クー デター以後、日本人観光客の中にはタイ国内の情 勢を懸念し、タイへの渡航を断念する者もおり、 タニヤは情勢不安の煽りも受けていた。さらに、 2010年は、UDD(National United Front of Democracy Against Dictatorship)による反政府デモ<sup>10)</sup>が大打撃となり、タニヤのカラオケクラブや日本料理店では正常な営業が困難な時期が続いた。しかし、シーロムエリア封鎖中、顧客は来ないとはわかっていても、通常営業をしていたカラオケクラブが数店舗あったことを、調査により確認している。「タニヤから明かりを消してはダメ。お客さんは来なかったけどね。私たちはデモに負けずに営業してるよっていう、アピールでした。」 ママA(表-3)、2010年6月 シーロムにて(使用言語:タイ語、日本語)この一連の騒動が治まった後も、タニヤは日本人を呼び戻すまでに時間を要している。

# 4. カラオケクラブの素描

本章からは、タニヤのホステスに関する調査 データに依拠するため、はじめに調査手法の詳細 を記載したい。タニヤはバンコクの中では高給な ホステスが集い、顧客獲得競争が激しいフィール ドであるため、筆者はホステスたちに金銭的な利 益をもたらす存在ではなく、日本人男性にとって も目障りな存在であった。筆者の存在は、その場 の円滑な空間の流れを阻害する存在になりがちで あり、タニヤでの調査をするためには有力な伝手 を得ることと、研究全体のイメージを提示し、調 査対象者に理解を求めることが必要であった。こ の方法を選んだ背景には、筆者が調査開始直後に 行った「顧客 | という立場で店舗を訪れるという 行為が、営業用の体制に切り替わり、顧客獲得の ためにアンテナを張っているホステスから見る と、邪魔者以外の何物でもなく 11)、そこから本心 を聞き出せる可能性が極めて低いことを理解したからである。また、1回の訪問でテーブルチャージ、指名料、ドリンク代等、店側に多額の金銭を投じる行為は、店側にとっては「お客さん」であることに変わりはなく、始終営業用の会話となり、表面的な調査にしかならないという結論に至った。このような見解や、タイの風俗営業の事情12を踏まえた上で、筆者はバンコクにカラオケクラブを始めとする性娯楽施設を数軒持ち、タイの性風俗業界に幅広いコネクションを持つタイ人経営者に調査協力の依頼をした。そこで、タイ人経営者、日本人経営者、ママ、勤務歴が長いホステスの4名を紹介され、徐々に調査対象者を増やしている。

調査対象者であるホステスとは、カラオケクラブの営業時間外に聞き取りを行うことが多く、この段階に入るまでは相互の信頼関係の構築を行うための時間を要した。営業時間外に彼女たちと会う理由については、1)営業時間内の場合、固定客や新規の顧客とのやり取りを妨げる行為となり、ホステスの収支や顧客との人間関係を壊しかねないこと、2)日本人女性である筆者が常時店内に居ることで、顧客に不信感を与え、通常のカラオケクラブの雰囲気を壊し、店の収支に影響を及ぼすことを避けるため、3)彼女たちとプライベートな空間で会話をすることにより、本音に近い発言を拾うことができると考えたかである。

以上の理由から、店舗内の観察は最小限に止め、 観察の際も振る舞いや服装には注意を払った。聞 き取り調査の形式については、1対1の改まった ものばかりではなく、数人で集まり職場や故郷、 友人関係に関する雑談をする、といった場面も 多々あった。ただし、「特定の人々とのみ親しくなることによって見方が一面的になってしまうことの危険性」[佐藤 2000:74] に配慮し、あくまでも自分はよそ者であるという「異人性」を保つことを心がけた。また、女性従業員が多いカラオケクラブでは、ホステスの間でなんらかの派閥が存在することもあり、筆者の発言により、彼女たちの仲を悪化させることのないよう、発言には十分に注意を払った。

サンプリングの方法は、スノーボールサンプリングだが、地方出身者であるホステスが母集団である場合、同郷のホステスばかりが集まるという傾向もあったため、バイアスを最小限に止めるべく、出身地、年齢、属性(婚姻歴、給与等)等が分散するように、こちらからランダムでホステスに声をかけることもあった。

## (1) カラオケクラブのシステム

現在、カラオケクラブは下記の3つにタイプが わかれており、各店舗で提示されている料金シス テムは、日本のナイトクラブとほぼ同様のもので ある。

- ① オフ専門店・・・ホステス全員がオフ可能な店舗。但し、オフに関しては交渉次第である。
- ② オフできるホステスとできないホステスが混在している店・・・オフできる者とできない者を区別している場合(ナンバープレートの色分け等)もある。
- ③ オフ不可店・・・現在タニヤでこの形態を維持する店舗は10店舗以下であり、老舗のクラブが多い。このタイプの店舗は、接待用に使われることが現在でもある。

表-1 カラオケクラブA店(オフ専門店)料金表

カラオケクラブA店 (オフ全員	可)					
1時間600バーツ(VIPルーム1時間+200B)						
テーブルチャージ5%						
ドリンク名	値段					
Chivas	1200B					
Black Lable	1300B					
いいちこ	1300B					
Hennessy (VSOP)	1600B					
Remy (VSOP)	1600B					
Henessy (XO)	5000B					
Chivas Royal Salute	6000B					
Jack Daniel's	1300B					
等						
ホステスドリンク	170B					
おつまみ+フルーツ	300B					
同伴料	200B					
オフ料金	600B					
クレジットカード決済可						

[出所:2007年9月の筆者の聞き取り調査により 作成]

表-2 カラオケクラブB店(オフ不可店)料金表

カラオケクラブB店 (	オフ不可店)
メンバー料金	
1 時間	900B
1 時間 30 分	1,100B
2時間	1,300B
ゲスト料金	·
1時間	1,200B
1 時間 30 分	1,400B
2 時間	1,600B
ビジター料金	·
1時間	1,900B
1 時間 30 分	1,400B
2時間	1,600B
	·

上記料金に酒、税 (7%)・サービス料 (10%) が別途必要 ビジターには、ビール2本または水割り2杯

サービス

[出所:2007年9月の筆者の聞き取り調査により 作成]

カラオケクラブA店はホステス全員がオフ可能 な店舗であり、店からホステスに支給される基 本給は無く、店内でのドリンクオーダーのキッ クバック(1杯分のドリンク料金の20%分)、 交通費という名目で1日100バーツ<sup>13)</sup>(以下、 バーツ=Bと表記)が支払われるのみである。そ のため、ホステスたちは店外デートでチップを 稼がない限り、高額な金銭を得ることができな い。他のオフ専門店では、交通費とは別に日給 200Bをホステスに支給しているケースがあった が、いずれにせよ、高給は店外デートによって 得られている。カラオケクラブ B 店はオフ不可 能な会員制クラブであり、料金設定は高めであ る。但し、会員制を設けているが、会員ではな い観光客も入店可能な場合があり、完全会員制 でない場合、その基準は明確ではない。オフ不 可店はホステスたちに給与を支払っており、ホ ステスたちは店外デートでチップを稼ぐ必要は ない。しかし、オフができないクラブに関して も、「客からの執拗なオフの要望があった時のみ、 これに応じるホステスを何人か用意している」 [日下 2000:99] というケースもあることから、 これらの店舗が完全にオフ不可であると断言す ることはできない。

「表面的にはオフされていないけれど、店が終わった後に携帯でさっき来たお客さんと連絡を取って、部屋に行ってお金を貰った子はいるよ。」
…… <それは、チップということ?>「そう。
部屋に行って、お金を貰うってことは、そういう
ことでしょ。ママに知られたら大変ね。」
……
<ママはそういうことには厳しいの?>
……
「ママもお客さんと色々あるのはわかってると思

う。でも、ここはオフできないお店でしょ。だったら、オフできるお店に行かないと。みんながそうだ(お金を出せばセックスできる)と思われるでしょ。」(ホステス、28歳、オフ不可店、2007年8月シーロムにて(使用言語:タイ語・日本語))

オフ不可店のホステスであっても、プライベートで日本人と親密な関係になるホステスは存在 し、上記の事例の他には、日本人男性の愛人となり、毎月金銭や物品を受け取っているケースが見られた。

店外デートをするためのオフ料金は、クラブ ごとに値段が決まっており、ホステスと交渉後、 500-1000B(相場)を会計時に店側に払い、店外 デートとなる。店外デートの対価として支払わ れるチップは、ショートタイム(2-3時間)で 2000-3000B(最も高い金額を答えたホステスは 4000B)、朝までのロングタイムで3000-4000B (最も高い金額を答えたホステスは5000B) が相 場と考えられるが、店外デートの時間と値段は 交渉次第であり、明確な金額は無い。ただ、店 外デートに関しては、カラオケクラブの営業終 了後に、携帯電話で連絡を取り合い顧客と落ち 合うケースもあり、ホステスの判断により「オ フ」という形を取らないこともある。店外デー トの内容についても、すべてが性交渉というわ けではなく、食事をするだけ、話をするだけ、 コスプレ撮影会、手を繋いで寝るだけ、という 意見がホステスたちから聞かれ、顧客との付き 合いの長さや親密度により、店外デートの時間 や値段は変動している。なお、店側が店外デー トによる収入の一部を徴収するという事例は筆 者の調査では見られず、ホステスたちの多くは 店外デートの収益を自身の稼ぎとして受け取っ ていると考えられる。

店内において、ホステスの胸元には番号札が付 けられていることが多く、男性は好きな女性を指 名することができる。一例として、上層階の店舗 では、エレベーターの扉が開いた瞬間、目の前に は番号札を付けた女性がずらりと並び、「私を選 んで」と言わんばかりの微笑と視線を男性側に送 る。男性の中には、選ばれないホステスのことを 考えると心苦しく、指名を避けるケースもある が、その場合、店側がホステスを選び男性の隣に 座らせ、一定時間が経過した後に別のホステスに 変えるかどうか尋ねる。この役割は多くの場合、 ママやチーママが引き受けており、彼女たちは一 定時間ごとに各テーブルを回り、顧客の顔と呼び 名を覚え、テーブルに不届きが無いかどうかを チェックし、随時対応している。ホステスたちの 服装はそれぞれの店舗の方針により異なり、服装 はホステスに任せている店、全員同じコスチュー ムを着せている店、日本の女子高生の制服、ナー ス服、全員眼鏡を装着している店など、さまざま である。

#### (2) 顧客の年齢層

カラオケクラブを訪れる日本人男性には、40代以上の男性が比較的多く見られる。20-30代の日本人男性の姿も見られたが、全体的に顧客の年齢層は高めである。

「ゴーゴーバーはドリンク 1 杯だけで一度に大勢の女性を眺められるし、気を使わなくていいよね。俺はゴーゴーの方が好きだな。」(日本人観

光客、20代、2007年9月 ナナプラザにて)

「おじさん(中高年)が多かったから、場違いな気がした。ボトルキープと言われても、高いよ。だってボトル1本2000Bだよ?2000円じゃないの。酒税とか、タニヤ価格なのはわかるけど、日本のキャバクラより高いと考えちゃうよね。」(日本人観光客、21歳、大学生、2008年9月 シーロムにて)

「インターネットの書き込みで見つけて、有名なんだなーと思って。でも、すごいよね。日本じゃないのに、ここだけ日本に居るみたい。女の子の連れ出しは考えてなかった。ちょっと怖いし、まぁ、記念に来ただけだし。」(日本人観光客、26歳、2008年9月 シーロムにて)

彼らは、観光客向けの値段設定になったとはいえ、カラオケクラブの価格の高さと居心地について言及している。また、観光名所を訪れた気分だったと言う者もおり、彼らは足繁く通いつめるリピーターにはなりにくいと考えられる。これに対し、40歳以上の観光客は別の意見を述べている。

「ゴーゴーバーとかディスコみたいなうるさい所はもういいかな。この年になると、そういう所ってなんか疲れるし行きたくないのよ。隣に若い女性が座って、一緒に歌って、話をしながら酒を飲む。日本でもスナックやキャバクラに行くけど、セックス目的とかじゃなくて、そういう風に飲みたい時ってあるんだよね。」(日本人観光客、40代、2006年9月 シーロムにて)

「実際に、隣についた女性の外見とかはそこまで気にしていないんだ。可愛い子というより、話をして気が合えば、また指名したいと思うし。」 (日本人観光客、40代、2008年9月 シーロムにて)

「タニヤは片言だけでも日本語を話せる子が多いから、助かるんだ。日本の価格より安いと思うし、タイに来るといつも寄る。指名するホステスもずっと同じ。たまーに顔見たくなる。」(日本人観光客、50代、2009年9月 ヤワラーにて)

40代以上の男性は、20代の男性と比べると、比較的、社会的地位も給与も安定しているケースが多いため、タニヤのカラオケクラブでかかるコストに関してもある程度納得をした上で訪れている、または、カラオケクラブの形態—1つのテーブルを使用し、隣に女性が座り、水割りなどを作り、騒がしくない店内で飲酒をしながら会話をする、あるいはカラオケを歌う—を好んでいる様子が伺えた。

#### (3) ホステスたちの労働条件

Pasuk et al. [1998:202] によれば、カラオケクラブの平均月収は65000B<sup>14</sup> とされている。ただし、この額をカラオケクラブからの基本給と手当て(交通費等)、店外デートによるチップだけで稼ぐホステスは、現在、衰退気味のタニヤではそれほどいないのではないかと筆者は推測している。

表-3 調査協力者の簡易プロフィール (2009年9月現在)

	田東滑	年齢	極	性産業以外の前職	ホステス歴	きっかけ (紹介元)	結婚歷/子供	およその月収	仕送り/月	将来の夢
77A	ピーチット	50 ft	中学校	地元の建設会社の事務	15年以上	雕婚、経済力確保(友人)	あり/1 (娘)	~ g00008	実家に10000B~	故郷に帰る
77B	チェンマイ	40 ft	高校	ホテルの従業員	10年以上	離婚、養育費確保(友人)	あり/2(娘)	100000B (援助込)	実家に10000B~	故郷に帰る
24C	バンコク	36歳	高校	日系企業の事務	10年以上	離婚、日本への憧れ(友人)	あり/なし	70000B ~	親に10000B~	日本人と結婚する
ホステスA	ロップリ	22歳	中学	ゲンサー	2年	仕送り、収入が良い(自分から)	なし/なし	75000B (援助込)	実家に10000B~	美容系サロンを持ちたい
ホステスB	ナコンパノム	24歳	美容師の学校	美容師	2年	若いうちに稼ぎたい (友人)	あり/なし	80000B (援助込)	$10000\mathrm{B}\sim$	資格を取って、昼間働く
ホステスC	シーサケット	22歳	マッサージ学校	タイ古式マッサージ店	2年	前職よりも収入が良い(姉)	なし/1	60000B (援助込)	親と子に15000B	子どもと一緒に暮らす
ホステスD	ロイエット	21歳	小学校	主婦(家事手伝い)	1年半	離婚、養育費の確保(友人)	あり/1 (息子)	40000B ~	実家に8000B~	日本人と結婚する
ホステス臣	ロイエット	19歳	小学校	不明	半年	母親への仕送り(友人)	なし/なし	50000B (援助込)	5000B ~	故郷に帰る
ホステスF	ウドンタニ	23歳	中学校	バンコク近郊の工場勤務	3年	職がない、養育費(友人)	なし/1 (息子)	80000B (援助込)	子供のみに使う	故郷に帰る
ホステスG	ウドンタニ	25歳	中学校	バンコクの飲食店	5年	収入が良い (スカウト)	なし/あり	50000B (援助込)	実家に8000B~	故郷で店を開く
ホステスH	ブリラム	23歳	高校	ホテルの従業員	4年	仕送り額を増やすため (友人)	なし/なし	70000B ~	実家に15000B	故郷に帰る
ホステスI	ウボンラチャタニ	19歳	小学校	飲食店従業員	3ヶ月	仕送り、欲しいものがある(友人)	なし/なし	30000B	実家に5000B~	わからない
ホステス』	スリン	20歳	中学校	なし	1年半	仕送り (知人)	なし/1 (娘)	90000B (援助込)	親と娘に20000B	故郷で店を開く
ホステスK	スリン	25歳	中学校	家事手伝い	2年	離婚、母親の病気(友人)	あり/なし	60000B (援助込)	母親に10000B+ a	故郷に帰り、のんびり暮らす
ホステスL	チェンマイ	20歳	ダンスを習う	ダンサー (タイ舞踊)	1年	ダンサーより儲かる (友人)	なし/なし	40000B ~	実家に5000B~	自分の店を持つ
ホステスM	チェンマイ	19歳	美容師の学校	美容師と兼業	半年	昼間の仕事より儲かる (友人)	なし/なし	50000B ~	母親に8000B	日本人と結婚する
ホステスN	スコータイ	36歳	中学校	主婦(家事手伝い)	7年	雕婚、養育費確保(友人)	あり/1 (息子)	50000B (援助込)	親に5000B	仕事を辞め、ゆっくりする
ホステス0	チェンライ	28歳	中学校	実家の露天商手伝い	10年	仕送り (知人)	なし/あり	65000B (援助込)	子どものみに10000B 日本人と結婚する	日本人と結婚する
ホステスP	ピサヌローク	19歳	中学校	バンコク近郊の工場勤務	7ヶ月	仕送り、自分の物も欲しい(友人)	なし/なし	$40000B \sim$	親に8000B	高校・大学の卒業資格を取る
ホステスQ	サラブリ	40 ft	ダンスを習う	会社の事務、ダンサー	20年	起業をするため (自分から)	なし/1 (息子)	100000B (援助込)	息子のみに2000B	エステ店を開く
ホステスR	アユタヤ	22歳	大学在学中	なし	半年	おこづかい稼ぎ (スカウト)	なし/なし	30000B ~	なし	日本で暮らす
ホステスS	チョンブリ	28歳	高校	自営業手伝い	7年	離婚、養育費確保(自分から)	あり/2(娘、息子)	60000B (援助込)	子供のみに使う	子どもを大学に入れる
ホステスT	バンコク	21歳	大学在学中	(自営業手伝い)	1年	おこづかい稼ぎ (スカウト)	なし/なし	35000B ~	なし	旅行会社に就職したい
ホステスU	バンコク	22歳	大学在学中	(家事手伝い)	3年	日本人と出会うため(自分から)	なし/なし	40000B (援助込)	なし	日本人と結婚する
ホステスV	バンコク	23歳	短大か専門	バーの店員	3年	良い暮らしがしたい (友人)	あり/なし	20000B ∼	3000B	外国で暮らしたい
ホステスW	バンコク	23歳	大学	なし	1年	親の借金(自分から)	なし/なし	30000B ~	なし	給与の高い就職先で働く
ホステスX	バンコク	21歳	大学在学中	援助交際?で金銭確保	1年半	おこづかい稼ぎ (友人)	なし/なし	60000B (援助込)	なし	ビジネスを始める
ホステスΥ バンコク	バンコク	18歳	高校	なし	3か月	一人暮らしがしたい(姉)	なし/なし	$30000B \sim$	なし	お金持ち日本人と結婚する

[出所:2009年9月時点の調査データをもとに筆者作成]

(注1:上記は、詳しいライフコースの聞き取りを行ったママ、ホステスの中から、28人分を抜粋したものである。2009年9月時点のデータであるため、この中には、現在、既にホステスを辞めている者も数人含まれている。)

(注2:1996年売買春禁止法改定により18歳未満は性産業で働くことができないが、勤務歴から年齢を逆算した場合、違法勤務の可能性がある場合も、そのまま表記している。) (注3:(援助込) という表記は、日本人男性からの定期的な金銭的援助を入れた月収をさす。)

表-3では、カラオケクラブの平均月収65000B を上回ったホステスは、28人中10人であり、その うち7人は毎月、日本人男性から金銭的な援助を 受けている。全体では、28人中15人が月10000B 以上を日本人男性から受け取っており、残りの 13人に関しても、2009年9月現在はいないが、過 去にそういった相手がいたと答えている者が6人 いた。親密な関係の固定客がいるホステスの中 には、数日間レンタルされる形でゴルフ旅行に同 行した経験がある者もいた。ホステスO(表-3) は、ゴルフ旅行に同行した際、交通費や食費、宿 泊費、店への欠勤料(1日につき600B)は顧客の 負担とし、1日につき5000Bのチップを受け取っ ている。また、ホステスC(表-3)はチップ付き で観光ガイドを頼まれることが多々あると話し、 <ホステス>と<顧客>の枠を超え、プライベー トな空間を共有し、親密になることで、利益を得 ているという現状がわかる。彼女たちは、顧客に 無理強いされているわけではなく、気が向かなけ れば、「体調が悪い」、「今日は忙しい」などと適 当な理由を作り、誘いを断っている。カラオケク ラブ側は、店外デートやプライベートな顧客との 付き合いに関して干渉をしていないため、ホステ スたちは店外では主体性を持ち、個人事業主15)の ような側面を持ちながら、経済活動を行っている。

さらに、彼女たちは顧客の仕草や持ち物をよく 観察しており、そこから職業や収入、妻帯者か否 か、駐在員か観光客かどうかを予測し、自分の隣 に座っている人物が自分に利益をもたらす相手か どうかを見極めている。こういった場合、比較的 経済力が安定した中高年の固定客を求める傾向が 強くなる。

・・・・・・<23歳でしょ。若い人には興味が無い の?>「うーん、若い人はお金無いね。おじさん の方がお金あるし、優しいから、付き合いたい。| ・・・・・ <タニヤで働く前もおじさんが好きだった の?>「タニヤで働く前は同じ年のタイ人と付き 合ってた。でも、お金無いし、働かない。あと、 浮気ばかりする。日本人はちゃんと働いて、責任 があるし、おじさんの方がお金をたくさん持って るから好き。| ・・・・・ <何歳くらいまで年上の人 と付き合える?>「60歳くらいかな。この前まで 付き合ってた人は58歳だった。やっぱり優しい し、お金もたくさん持ってるよ。タニヤの女の子 は年が離れた日本人の彼氏がいる子が多いと思 う。あの子(インタビュー時は人名が入る)も、 あの子も彼氏はおじさん。」(ホステスH(表-3)、 2009年12月 ラチャダーピセークにて(使用言 語:日本語))

むろん、タニヤで働くホステスすべてが中高年を好むというわけではない。経済的な関心は薄かったが、観光客としてタニヤを訪れた20代の日本人大学生と結婚をしたという事例や、30代の日本人出張者と交際をするために、ホステスを辞めたという事例もある。しかし、ホステス側は高給を得るためにタニヤを選んでいることから、安定した経済力を持つ男性に対しての関心が最も高くなる傾向にあり、そこから性格、人間性、容姿を見極め、経済的な関心以外の興味を持ち、好意的に思える相手であれば、親密な関係(多くの場合は愛人関係)に発展していくケースが調査では最も多かった。

ホステスたちの休日は月に3、4回であり、欠 勤については、それぞれの店舗で罰金制が設け られている。決められた日以外に休みを取る場 合は、1日につき500-800Bの罰金となるが、帰 郷などの理由で休日を増やす場合は、事前に責 任者と相談をした上で、罰金を免除されるケー スもあるため、すべてのホステスが月3、4回 しか休みを取れないというわけではない。遅刻 については、1分につき2Bを基本給から差し引 くことを決めている店舗もあり、店舗内のルー ルも多種多様である。固定客がいるホステスは、 罰金を顧客に支払わせる、顧客から月々援助さ れているので気にしていない、と答える者がい たが、固定客がいないホステスはなるべく罰金 を取られないように勤務をしている様子が見受 けられた。日本の風俗業界でも同様のことが言 えるが、固定客がいない場合、ホステスの収入 は向上せず、自身の仕事に対するモチベーショ ンも低下する。カラオケクラブの給与はタイ性 産業の中では高給であるとはいえ、すべてのホ ステスが高い報酬を得ているわけではなく、特 に売り上げ等に関するノルマを設けている店で は、顧客がつかないホステスは、在籍が困難に なるという現状がある。

# (4) タニヤで働くことの価値

これまで提示してきたように、現在のタニヤには店外デートを推奨している店舗が多いが、金銭を投じれば誰とでも店外デートができるわけではないことを強調したい。多くのホステスには顧客を選ぶ権利があり、嫌であれば断ることもできる。ホステス側の店外デートの拒否に関しては以下のような事例がある。

「私がまだホステスだった時、どうしても私を

オフしたいと言うお客さんがいました。でも、私 は嫌だった。だから、他にもたくさんホステスが いるから、その人たちを選んでくださいといつも 言っていました。」・・・・・くどうして嫌だったん ですか?>「彼の隣には何度も座り、話をしまし たが、心が通じない、何かが違うと思った。私は 心が通じない人とは外には出たくなかったんで す。そうしたら、そのお客さんはある日、ものす ごく酔っ払って店に入ってきました。私は怖かっ たけれど、隣に座りました。お客さんはいつも通 り、「外に行こう | と言って、1000Bをたくさん テーブルの上に出しました。でも、私は嫌だった から、行かないと。お客さんはものすごく怒っ て、私の腕を掴んで、お札を丸めて、ぶつけて怒 鳴りました。」・・・・・<お客さんは何て言いまし たか?>「これだけ(お金を)出してもまだ出な いのか!って。お店のスタッフが慌ててお客さん を取り押さえて、彼は店を出入り禁止になりまし た。」・・・・・<あなたを傷つけようとして、店の 中で暴れたから?>「そうです。でも、彼はそれ よりももっと酷いことをしました。タイバーツに はそれぞれに王様の顔があるでしょう。それを丸 めたんです。私たちタイ人にとって、それは本当 にいけない行為なんです。お客さんは、何日かし て店に謝りに来ました。でも、私たちは彼を許す ことはありませんでした。彼は、お金を出せば誰 とでも外に行けるんだと勘違いしていました。で も、タニヤで働くときに、私はママにこう言われ ました。『行きたくないのなら、行かないと言え ばいい。私たちはタニヤのホステスなのだから。』 (ママA (表-3)、2010年9月 カラオケクラブ 店内にて(使用言語:日本語、タイ語))

彼女は、長いホステス歴の中で、タニヤのホ ステスであるという自覚を持ちながら、「オフト についても慎重に考え、働いていた。タニヤは、 タイ性産業の中でも料金設定が高く、日本人の みを相手にする空間であるため、日本人に好ま れる容姿で、日本語を話すことができないとい けない、というイメージが先行している部分が バンコクの中でも少なからずあった。筆者は、 性産業業界の中ではタニヤを<上位>と考える 意識がホステス側にあるのかどうか確かめるた め、「タニヤ以外で働いたことはあるか」という 質問をした。「タニヤは他の性産業業種よりも < 上>ですか | と聞くことは、ホステスたちに 「私たちは<上>なのだ」という意識を植え付け る可能性があり、間接的な問いから彼女たちの 心情を読み取っている。

「今のタニヤはお客さんが少ないからね。スクムビットのカラオケやテーメー<sup>16)</sup>、あとは、日本に行ってホステスをしたり、タニヤから出る子もいる。私も2回日本に行ったことがある。タイに帰るとタニヤで働く。私は最初からタニヤで働いていたし、日本人がいいの。」(ホステスN(表-3)、2009年12月 シーロムにて(使用言語:日本語))

「(眉をひそめて) マッサージもゴーゴーも絶対 嫌よ。わかるでしょ?あそこは安っぽいし、ここ とは違うでしょ。」(ホステスQ(表-3)、2010年 7月 ペッブリーにて(使用言語:タイ語)) ※彼女は20代からタニヤで働き、台湾、シンガ ポール等、海外でのホステス経験がある 「ゴーゴーバーは若いうちは良いけれど年を取るとスタイルが崩れるから、スタイルに自信がある人じゃないとお客さん来ないよ。私は子どもを産んでいるし、タニヤはオフも自分で選べるから、しばらくここで働く。でも、中には子どもを産んだ後、(容姿的に)タニヤに戻れなくて、タイ人が行く所(置屋と推定される)でしか働けなかった人もいたよ。私だったら、無理。恥ずかしい。」(ホステスG(表-3)、2010年9月シーロムにて(使用言語:日本語、タイ語))

上記の意見は抜粋であり、かなり間接的な表現の回答である。実際には、他の業種に対して明らかに見下した発言をしている者やジェスチャーをする者が多々おり、全員がそのような考えであるとは言えないが、ある程度、業種間での反発や差別化が存在することが予測できた。ホステスQに関しては、タニヤでのホステス歴が長く、海外でも日本人を相手としたホステスやエスコート嬢の経験があるためか、彼女からはタニヤを<上位>とする意識と<プライド>がはっきりと見られた。ホステスQのような、明白なプライド意識は、比較的ホステス歴が長い者に見られる。若いホステスの中には、そのようなプライドが見えにくい者もいたが、他の性産業業種とタニヤを区別する意識は見られている。

#### 5. ホステスたちの変容

#### (1) ホステスたちの出身地

筆者がカラオケクラブ10店舗で行った出身地調査では、東北部が最も多い割合を占めていた。

	バンコク	中部	南部	南東部	東北部	北部	不明	合計
カラオケクラブA店	12	8	0	0	10	5	0	35
カラオケクラブB店	4	4	0	0	10	5	5	28
カラオケクラブC店	8	3	0	1	4	2	0	18
カラオケクラブD店	6	5	1	0	11	10	0	34
カラオケクラブE店	4	5	0	0	13	9	0	31

()

0

0

0

0

1

5

13

6

7

5

84

6

4

5

6

7

59

0

0

0

0

0

5

14

28

17

22

18

246

表-4 カラオケクラブ10店舗におけるホステスの出身地内訳

()

0

0

()

0

1

54 [出所:2009年9月 筆者の調査データをもとに筆者作成]

1

6

3

5

4

2

5

3

4

2

41

カラオケクラブF店

カラオケクラブG店

カラオケクラブH店

カラオケクラブI店

カラオケクラブ「店

合計

(注:店舗に所属するホステス全員ではなく、出勤している女性のみ)

東北部の出身者が多いことに関しては、しば しば彼女たちの肌の白さや容姿が取り上げられ ることがあったが、そのことよりも、地域経済 格差と仕送りの問題が関係していると考えられ る。特に東北・北タイでは、女性は家事や育児よ りも、出稼ぎ先で賃金を得ることが重要視され ているという議論があり「Muecke 1981: 1 - 8]、 東北部の女性に関しては、仕送りをすることで 家族を支えなければならないという意識が男性 よりも高く見られたという調査結果が出ている [Whittaker 1999: 52]。カラオケクラブのタイ人経 営者も、「仕送りはイサーンで根強く残っている 慣習で、他の地域のホステスと比べてもイサーン 出身のホステスの方が仕送りに対する意識が高 い」と話しており、この地域の女性に対しては、 家族や親族から仕送りの期待が寄せられる現状が 根強く残っていることがわかる。しかし、給与の 行方は、仕送りだけに留まらないという事例も見 られる。例えば、ホステスA(表-3)は、バン コク在住の日本人駐在員1人と、日本に帰国した 元駐在員 1 人からそれぞれ50000 円と15000B を毎 月受け取り、10000Bを実家の母親に送金してい る。彼女は日本円とタイバーツのレートの変動を 考え、一方には日本円を支払わせている。なお、 この2人の駐在員は、彼女が複数の日本人と親密 な関係であることは知らない。10000Bという彼女 の仕送り額は相当高給だが、月収約75000Bに対 し、決して収入の多くを仕送りに費やしているわ けではない。彼女は友人と2人でルームシェアを しているため、家賃は半額の4000Bを支払い、そ の他の食費、交通費等を差し引いてもかなりの額 が余ることが推測できるため、毎月の支出の内訳 について尋ねた。

「仕送りは大事。親は病気だから、送金は毎月 してる。でも、女の子は化粧品や服も必要だし、 お金がかかるでしょ?お店が終わった後に、友達 と飲みに行ったりするし。自分で使う分を残し て、残りはできたら将来のために貯金してる。| ・・・・・く何に一番お金を使っている?>「化粧品 と服かな。私は日本の化粧品が好き。でも高いで しょ。色々買うとすぐに5000Bくらい使ってしま

うの。」 (ホステスA (表-3)、2008年9月 ラ チャダーピセークにて (使用言語:日本語・タイ 語))

その他のホステスにも同様の質問をしたが、仕送りをしている者の中で、ホステスAと同等の回答をした者は多かった。彼女たちの中には、もともとは工場、飲食店などで働いていた者もおり、その頃は物価の高いバンコクで毎月の生活費と仕送りを捻出するのにかなり苦労をしたと話している。

「私は、飲食店で働いてた。日本料理の店。友達が働いていたので、紹介してもらって・・・・お店には、日本人と一緒に来るタイ人の女の子がけっこう居て、カラオケクラブの子かなって思ったけど、うらやましいなって見てた。でも、私には日本人の知り合いはいないし、店の給料も安いし、この仕事じゃだめだと思って、タニヤに行った。」(ホステスI(表-3)、2007年9月 シーロムにて(使用言語:日本語・タイ語))

「私は、チョンブリにある工場で働いていたけれど、給料がすごく安かった。交通費を払って5000Bくらい残って、家賃は友人2人とルームシェアしてたから、3分の1を払う。2000Bは毎月送金するって決めてたから、すごく切り詰めてた。実家にはもっとお金を送りたいけれど、服を買ったり、色々自分の物もほしかった。贅沢をしたかったわけではないけど・・・このままだと苦しいと思って、同じ故郷の友人にカラオケクラブを紹介してもらった。店のママと少し面接をして、雇ってもらえることになったから、最初は友達の

ドレスを借りて、お店に出てた。」(ホステスP (表-3)、2008年8月 ラチャダーピセークにて (使用言語:日本語・タイ語))

このように、仕送りは確実にするが、化粧品、 衣類、美容整形のために、自分を着飾るための収 支を残しておきたいという傾向が地方出身者にも 見られた。都会に対する憧れを持ち、タニヤで働 き始めてから散財傾向になり、常に手元に金銭が 残らないといった事例もあり、大金を手にするこ とでこれまでの価値観や感覚が崩壊していく様子 も見られている。中には、タイ人の恋人にひたす ら買いでいる、という事例もあった。

バンコク出身者に関しては、もともとバンコク出身者の場合と、家族が出稼ぎのためにバンコクに住み、そのまま永住したという出稼ぎ労働者の二世、もしくは三世であるという 2 つのケースがあった。彼女たちの中には親と同居していると答えた者もいたが、ルームシェアなどをして、実家を出ている者も見られた。——「お小遣いを稼ぎたいから、家から遠くてタイ人が来ないタニヤを選んだ。」(ホステスX(表-3))、「親に借金がある。昼間の収入では足りなくて、店外デートはしなくてもいいと聞いてカラオケクラブで働くことにした。」(ホステスW(表-3))、という意見が聞かれた。

南部・南東部出身者は、調査中には表-4に示されている2名のみしか会うことができなかった。店舗経営者は色が白い女性がタニヤでは好まれると、女性の肌について言及していたが、イスラム教徒が集中していることや、平均所得が北部・東北部に比べ高いこと、仕送りに対する慣習に差異があること、などが関係しているのではな

いかと推測している。

#### (2) ホステスたちの学歴

ホステスの学歴に関しては、真実を見極めるの が非常に困難であり、学校を卒業しているのかど うかが不明確なケースが多々あったため、子ども 時代から順を追って話を聞き、最終的に通学した と考えられる所属機関を提示している。その場合 は、「卒業」とは表記していない。表-3には大学 卒業者と在学者が数名いるが、完全に自称であり 実際には所属していないと判断するケースもあっ た。ここでは、筆者の学生生活に関する話題を出 し、大学の学部、場所、授業の内容、授業料など、 気分を害さない程度に問いかけ、在籍しているか どうかを判断している。その結果、ラムカムヘン 大学など、生徒数が多く、比較的入学しやすい オープンカレッジに在籍しているケースが多かっ た。大学生活を聞くと、朝方就寝し、昼過ぎに起 床すると答え、勉学に勤しむ姿が想像しにくく、 在籍をしているだけという状態の者もいた。中に は、大学の学生証を提示する者も居たが、学生証 はヤワラーなどで偽装が可能だということがわか り、判断材料からは除外している。その他には、 自分ではなく兄弟や子どものために学費を出すホ ステスがおり、兄弟や子どもには勉強をさせ、偉 くなって欲しいと、望みを託している事例が見ら れた。

大学進学は当たり前であるという風潮になりつつある日本人の感覚で見ると、彼女たちの学歴は低いと思われがちだが、表-3を見ると、そこまで学歴が低い者たちが集まっているとは一概に言えない。タイ国内の進学率の上昇や、大学入学への窓口が広がったことも関係していると考えられ

るが、日下 [2000] が指摘していたように、一部では、日本の大学生や就職活動中の女性が高収入を得るために、一時的に風俗産業でアルバイトをする事象に近いケースが見られ、タニヤが短期的なアルバイト先として、若い女性に選ばれている可能性があった。

#### (3) タニヤのホステスになるきっかけ

ホステスの中には、離婚歴があり、子どもを故郷の親に預けて出稼ぎに来ている者、結婚歴はないが子どもの養育費が必要な者、昼間の職から転職してきた者、昼間の職と兼業している者、など個々の理由を見るとさまざまな要因がある。しかし、程度の差はあるものの皆、経済的な理由によりタニヤに流入しているため、「この仕事が楽しい」と言う者がいたとしても、それはすべて後付けに過ぎず、短期間で高収入を得ることができなければ、ここまで大勢の女性がタニヤ、もしくは性産業に身を投じることはないだろう。

経済的な事情を抱えたホステスたちがタニヤに入るルートとして最も多く挙げられたのが、「友人の紹介」である。地方出身者の場合、①地方にいる段階で、バンコクへの出稼ぎを考え、高収入を得るために性産業で働いている友人に紹介をしてもらう(その場所がタニヤであった)、②バンコクで別の仕事をしていたが、所得向上のため、友人に紹介をしてもらう、その他には、③カラオケクラブのママが地元にリクルートに出向き、そこでタニヤで働くことを決める(この場合、必然的に店内には同郷のホステスが増える)、④自分からタニヤに面接に行く、といった内容が主である。バンコク出身者の場合も、友人の紹介、という回答が最も多く、その他は、自分から出向く、

街でスカウトをされたというものであった。「日 本人男性の間で広まっている『タニヤのホステス は、比較的裕福な家庭の出身者が多く、恵まれた 環境で育った女性が多い』という話が根拠のない 単なる噂である | 「日下 2000:163] という指摘 は、現在でも同様であるが、現在、そのような認 識をしている日本人男性は筆者の聞き取り対象者 の中にはおらず、特に駐在員については、彼女た ちは素人のようで素人ではないと、HIV や STD (sexually transmitted disease) に対して過敏になっ ている者もいた。比較的裕福な家庭の出身者の事 例は、ホステスW(表-3)が当てはまる。彼女 は、以前はお金には困らない家庭で育ったが、親 の事業が傾いたことで、オフ不可の立場でカラオ ケクラブに所属している。彼女はタニヤのホステ スと自分が同じであると思われることに嫌悪感を 抱いており、タニヤが業界の中では<上位>であ るという認識はあったが、次のように答えている。 「タニヤは他のところ (他の性産業業種) よりは マシ。お客さんと寝なくてもいいでしょ。でも、 それ以上ということはない。例え、オフされてい なくても、タニヤに居れば居るほど思うの。周り から見れば皆一緒。嫌だ、一緒にされたくない。」 —2007年12月 スクムビットにて(使用言語: 英語)

階層社会が色濃く残るタイでは、上流家庭の人間ほど、女性が性産業で働くことに対する偏見が非常に強いため、ホステスWは、比較的裕福な家庭の出身であるが故の大きなジレンマを抱えている。ホステスたちは性産業業界ではタニヤはある程度<上位>に位置づけられていることを意識しているが、現実社会では決して上位には位置づけられることはないことを理解しており、青

山「2007」も指摘した通り、この差別化は彼女た ちが現実社会との折り合いをつけるために必要な プロセスであったと言える。ただ、本当に裕福な 家庭の出身だった場合、このような差別化では折 り合いはつけられないという現状がホステスW の事例からは明らかになっている。しかし、裕福 ではない家庭でも、娘がホステスとして働くこと に反対している親はおり、「おそらく家族は気づ いている」、「絶対に知られないように友人と協力 し合っているし、家族や親族がカラオケクラブを 含む性産業を良く思っていないという回答をした ホステスは多かった。中には、毎月の仕送りのた めには娘の犠牲も仕方が無いと見て見ぬふりをす る、娘に必要以上の仕送りを要求する、という事 例もあり、高給を得たことで家族との関係が崩れ たホステスもいた。地方出身のホステスたちは、 バンコクでは同郷を中心とした限られた人間関係 と、狭い生活空間で新しい生活をスタートさせて いるため、自分の存在を知る者がいない土地での 生活は孤独である反面、行動に規制をかける者 (抑止力) が存在しないという側面を持っている。 タニヤに関しては、日本人専用という特質がタイ 社会の監視の死角になりやすく、バンコク出身者 に関しても「タイ人が来ないから(働きやすい) と口にしており、女性が流入しやすい状況を作り 上げているとも考えられる。

また、一部のホステスたちはシングルマザーという事情を抱えている。夫の浮気、ギャンブル、無職といった理由で結婚生活が破たんしたという話はタニヤ以外でもよく耳にするタイの日常であるが、婚外子を産んでいる事例もあり、父親は以前交際していたタイ人、顧客だった日本人、という回答が上げられた。パートナーがいないのに、

に子どもを産むことに不安はなかったのかという 問いに対して、「子どもは私の子どもだから構わ ない |、「夫は浮気をするので必要ない |、「堕胎は できないし、失敗したら怖い「汀」という回答が挙 げられた。しかし、子どもを出産し、年齢を重ね、 容姿や体型が衰えてしまった場合、雇用を拒否さ れることがあり、ある程度見栄えが良い女性でな いと復帰が難しいという現状もある。タニヤだけ ではなく、性産業業界は若さを売りにしている部 分があり、年齢を重ねるごとに、収入も高くなる とは限らない。顧客は若い新入りのホステスに目 を奪われ、年齢層が高いホステスは固定客を長年 惹きつけておくためには、会話や駆け引きのテク ニックが必要となるだろう。ホステスの年齢層が 比較的幅広いタニヤではあるが、30代を超えて若 いホステスたちと張り合える女性はほんの一握り である。多くの場合は、30代を前にして、結婚、 出産、転職、タイ国外への出稼ぎ、帰郷などによ りホステスを引退するが、タニヤに残るホステス はその後も生活の糧を築かなければならず、シビ アな世界を生き抜いている。

#### 6. おわりに

歓楽街という空間は、マクロ的な経済変動に敏感に反応し、随時営業システムやサービスを変え、日々変化を遂げている。タニヤは駐在員の街から日本人観光客が訪れる街へ変化し、現在は中華系、韓国系の人々も訪れつつある街に変容している。タニヤは、タイ国内の経済変動だけではなく、日本経済の変動や諸事情も大きく影響しており、タニヤは日本経済のバンコクにおけるプレゼンスの写し鏡であると言える。日本人の顧客が減

少し、衰退する現在のタニヤは、皮肉にも現在の 日本経済を如実に表しているようにも見える。

タニヤは誕生当初から、日本的な営業システム をコピーし、その後も日本の風俗産業における サービスやシステムにも非常に敏感であったこと が伺える。カラオケや時間制パック料金の導入、 さらには、「オフ/店外デート」を組み合わせ、随 所で変容しながらも、日本人専用歓楽街というス タイルは辛うじて崩さずに今日まで存続してい る。日下 [2000] が指摘したように、タニヤの誕 生には、日本の会社文化とそれを取り巻く日本人 駐在員が深く関係しており、彼らのニーズに答え るようにタニヤは形成されてきたと言える。しか し、「日本人専用歓楽街」としてのタニヤの維持 には、ホスト側である経営者やママが掲げてきた 「日本人以外お断り」という方針も大きく関わっ ており、その目的に商売という経済的な背景が色 濃く見えていたとしても、彼らが全くの無関係で あったとは言えない。ホステスたちも同様であり、 顧客を日本人に限定したタニヤだからこそ、ホス テスとして働くことを選んでいる者もおり、そこ に日本人に対する経済的関心が強いことはある程 度予測できるが、彼女たちもタニヤの今日までの 存続を支える役割を間接的に担ってきたと考えて いる。タニヤが他の業種に比べて<上位>である というホステスの意識―プライド、アイデンティ ティ―についても、タニヤを維持する重要な原動 力となっており、タニヤで働き始めた当初は、そ のような意識が全くなかった者も、徐々にタニヤ と他の業種の差別化を図っていることが明らかに なっている。このタニヤと他の業種を差別化する というプロセスは、彼女たちが性産業業界を生き 抜くために自身を誇示する重要な強みとなり、一 種の自己防衛的な役割も果たしていると、筆者は 考察している。さらに、「オフ」をされるかどう かは顧客との交渉次第であり、ホステス側が主体 性を持つことができる状況や、容姿や体型といっ た外見的な部分である程度のレベルが求められて いる傾向も、彼女たちのプライドを上昇させる要 因であると考えている。

また、第1章で述べた、これまで指摘されてきたタイ性産業で働く女性像とは逸脱した事例についても、タニヤのホステスたちには当てはまることが多く、高給を得る理由が、仕送りだけに留まっていない。むろん、特に東北・北部の女性に関しては、「仕送りを必ずする」という義務感を持ち、タニヤを選んでいる者が最も多いが、自身の貯蓄や消費分を確保しているケースが見られた。中には、仕送りとは無関係であり、自身の所得向上や日本人との出会いの場として、タニヤのカラオケクラブを選んでいるホステスもおり、彼女たちの価値観も多様化していると考えている。

以上、本論文では、ホステスたちの労働経験をもとに、タニヤの今日までの存続と変容について考察を行った。本稿で提示した近年のタニヤの状況を見ると、今後、タニヤの労働条件を目当てに、アルバイト感覚でホステスをする若い女性がさらに増加することも考えられる。アルバイトや、副業としてホステスをする女性、つまり、素人ホステスが増加することが、タニヤという歓楽街の今後の発展/衰退にどのように関わっていくのかについては、注意深い観察を要するだろう。日本人駐在員や観光客が減少傾向にあることを踏まえ、タニヤという歓楽街が今後どのような方法で存続するのか、またはさらに衰退していくのかは、性産業の繁栄のメカニズムという観点において興味

深い事例であるため、長期的な視野からの調査研究を継続したい。

#### 注

- 1) タニヤのカラオケクラブは日本のスナック、バー、 クラブ等の営業システムをコピーしているため、本 稿では、日本で使用される、男性客をもてなす女性 従業員=「ホステス」という呼び名を使用する。欧 米におけるホステスは売春婦を指すことがあるが、 日本で使われる「ホステス」は意味合いが異なる。
- 2) 市野沢は、ゴーゴーバーのバーガールたちが顧客との間に行う活動には、会話や直接の身体接触を通して相手の性的ニーズに答える、といったものがあるとし、対人接客的性サービスの概念は、性交渉の売買を色濃く持つ活動も、そうでない活動も同時に包括するものと位置付けている「2003:15]。
- 3)「ママ」、「チーママ」は、日本の飲食店(特にスナック、バー、クラブ)で、顧客や従業員が店の女主人に対して用いる呼び名である。この呼び名も、日本からタイに持ち込まれたものであり、「ホステス」と同様に、本稿ではこの呼び名を用いる。
- 4) タイのアングラビジネスの年間所得は330-440億米ドルの所得を生み出し、その中でも売春の年間所得は225-270億米ドル(4500-5400億バーツ)であり、タイのGDPの約10-14%にあたる「リム1999:13-14]。
- 5) 企業により待遇は異なるが、駐在員には、月額家賃、海外赴任手当て、自動車と運転手等が給与とは別に支給されるため、日本よりもかなり裕福な生活を送ることができる。しかし、現地企業に直接雇用されている場合は、月収がそれほど多くなく、タニヤでの散財は彼らの許容範囲を大幅に超え、この当時、彼らは顧客には含まれていなかったと考えられる[日下 2000:104-105]。
- 6) 調査協力者の希望により、年齢・職種・発言等はすべて了承を得たもののみを提示しているため、中には、詳細な情報が記載されていない者もいる。ホステスたちに関しても同様に、了承を得た情報のみ提示しているが、聞き語り部分については、言語が日本語(もしくはタイ語との併用)である場合、読みにくい部分があるが、肉声に近い形で提示をしたいため、修正は加えていない。
- 7) 1985年以前は最も多い年で31社であった企業数が 1989年には172社に増え、1990年代には在留日本人 が2万人を超した。うち80%以上が駐在員とその家

族である「日下 2000:88-89]。

- 8) 1998年当時のインタビューでカラオケクラブの軒数は300、ホステスは全体で1万人に達する[日下2000:89]としている。
- 9) バンコクのスクムビット地区には、日系企業の支社 とその家族たちの居住が多く、スクムビット・ソイ 33はタニヤに次ぐ日本人街と呼称されている。ただ し、シーロム地区に日系企業の支社が全く無いわけ ではなく、現在もシーロム地区を拠点とする日系企 業は多く存在する。
- 10) 2005年、下院総選挙で議席の75%を占めたタクシン政権(2001-2006年)が翌年9月19日、軍事クーデターにより追放されたことが発端となり、タクシン派(赤シャツ)、反タクシン派の闘争が続いていたが、2010年5月13日シーロム地区サラデーン交差点付近で爆破があり、タニヤが位置するこのエリアは強制封鎖され、しばらくの期間、カラオケクラブは通常の営業が困難になった。
- 11) タニヤのカラオケクラブ店内は、1 つのテーブルに 顧客とホステスが座り、カラオケや会話等を楽しむ ため、テーブルごとにそれぞれの世界 (空間) が出 来上がる。そのため、例えばゴーゴーバーのように 大音量の音楽が流れ、大勢の顧客がドリンク代だけ で出入りが自由、という空間とは状況が異なる。また、店内には日本人女性も入ることが可能であるが、多くの場合は日本人男性が顧客である。
- 12) タイでは風俗営業の管理は警察が行っているが、警察以外の何らかの組織が全く介入していないとは言い切れず、このような手段を取っている。
- 13) 2006年8月の調査開始時のレートは1バーツ=約 3.1円であり、2011年の調査終了時点で、1バーツ=

- 約2.7円であった。若干の変動はあったものの、筆者 の調査期間は1バーツ=2円後半であった。
- 14) 現在のタイの大学卒業者の初任給が10000-15000Bと 言われており、65000Bは高給である。
- 15) 松田は、銀座のホステスに関して、ホステスの所得は 税法上も給与所得ではなく事業所得として分類されて いることを挙げ、基本的に店側はホステスに軒を提供 し、ホステスは提供された場を借りて、事業活動を 行っているため、個人事業主と見なされることを指摘 している [2001:55]。市野沢もバーガールに関して、 公的な構造を持つ組織の一員としての賃労働者という よりは、むしろオープンな市場において活動する個人 事業主、もしくは商売人と見なしたほうが適切である [2003:25] としており、この位置づけはタニヤのホ ステスに関しても当てはまると考えられる。
- 16) テーメーカフェはスクムビット・ソイ15にある出会い喫茶のような場所である。店は地下にあり、薄暗く、顧客には欧米人、日本人を頻繁に見かけた。顧客は、ドリンクを1杯(多くの場合は、女性の分も)買い、タイ人女性と会話やデートの交渉をする。タニヤのホステスの中には、「顧客がつかない夜はここに来る」と話す者もいた。
- 17) タイの法律では、妊婦の健康状態の悪化やレイプに よる妊娠以外の堕胎が認められていないため、望ま ない妊娠をした場合、タイ国内では流産を促す違法 な薬物の服用や、闇病院での堕胎手術を受けるケー スがある。そのため、出血多量や荒い手術により死 亡する若い女性が増えていることが、近年、タイ国 内でも報道されている。後遺症(不妊、等)が残っ た場合においても、堕胎が違法な行為であるため、 訴えることができず、泣き寝入りする女性も多い。

#### 引用文献

青山薫 2007『「セックスワーカー」とは誰か:移住・性労働・人身取引の構造と経験』大月書店。

Cohen, Eric 1996 Thai tourism: Hill tribes, islands and open-ended prostitution, White Lotus.

市野沢潤平 2003『ゴーゴーバーの経営人類学:バンコク中心部におけるセックスツーリズムに関する微視的研究』めこん。 日下陽子 2000『タニヤの社会学』めこん。

リム、リン・リーン 2000 [1998]「東南アジアにおける売買春の経済的・社会的背景」 津田守・さくまゆみこ,他(訳) リム、リン・リーン(編)『「セックス」産業:東南アジアにおける売買春の背景』 pp.1-37 日本労働研究機構。

松田さおり 2001 『感情労働の社会学的研究:ホステス労働を事例とする参与観察及びインタビューを中心とした質的分析』 中央大学大学院文学研究科修士論文。

Mueke, Majorie 1990 The AIDS prevention dilemma in Thailand, Asian and Pacific Population Forum, vol.4, pp.1 - 8.

Odzer, Cleo 1990 Patpong prostitution: Its relationship to, and effect on, the position of women in Thai society, Unpublished Ph.D thesis submitted to New School for Social Research.

1994 *Patpong sisters: An American women's view of the Bangkok sex world,* Arcade Publishing and Blue Moon Books. パスク・ポンパイチット 1990『マッサージ・ガール』 田中紀子(訳) 同文館。

Pasuk Phongpaichit, Sungsidh Piriyarangsan and Nualnoi Treerat 1998. *Guns, Girls, Gambling, Ganja: Thailand's illegal economy and public policy*, Silkworm Books.

佐藤郁哉 2002『フィールドワークの技法:問いを育てる、仮説をきたえる』新曜社。

トゥルン、タン・ダム 1993 [1990] 『売春:性労働の社会構造と国際経済』田中紀子・山下明子(訳)明石書店。

ワティニー・ブーンチャラクシ,ゲスト、フィリップ 2000 [1998] 「タイにおける売買春」 津田守・さくまゆみこ他(訳) リム、リン・リーン(編) 『「セックス」 産業:東南アジアにおける売買春の背景』 pp.187-241 日本労働研究機構。

Whittaker, Andrea 1999 "Woman and capitalist transformation in a Northeastern Thai village", Pater A. Jackson and Nerida M. Cook, eds., *Gender and sexualities in modern Thailand*, pp.43–62, Silkworm Books.